

平成三十一年度 日高看護専門学校 入学試験問題

〔一般〕

〔国語総合〕

(時間：六十分)

《注意事項》

- 1 試験監督者の指示があるまで問題冊子は開かないでください。
- 2 解答题用紙には解答欄以外に次の記入欄があります。監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
- ① 氏名欄に、氏名・フリガナを記入してください。
- ② 番号欄に、右詰めで受験番号を記入し、その下のマーク欄にマークしてください。
正しくマークされていない場合には、採点できないことがあります。
- 3 解答は、解答题用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしてください。
- 4 国語総合の問題は全部で三十八問あります。解答题用紙の問一から問三十八までの解答欄を使用してください。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答题用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験終了後に問題冊子を回収しますので持ち帰らないでください。
- 6 問題冊子の所定の欄に受験番号を記入してください。

受 験 番 号

□ 次の問いに答えなさい。解答番号は□(1)～□(5)。

問一 次の作品の中で、作品の書かれた時代が違つたものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□(1)。

- ① 更級日記 ② 十六夜日記 ③ 土佐日記 ④ 蜻蛉日記

問二 次の書き出しで始まる作品の題名を選び、番号で答えなさい。解答番号は□(2)。

道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思うころ、雨足が杉の密林を染めながら、すさまじい早さで麓から私を追って来た。

- ① 伊豆の踊子 ② 羅生門 ③ 天平の甍 ④ 阿部一族

問三 次のうち、敬語の使い方が誤っているものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□(3)。

- ① どうぞおひとつめしあがつてください。
② 私のお母さんがそのように申しました。
③ 明日、校長先生のお宅にうかがいます。
④ 講師の方は熱心に講義をして下さった。

問四 「千変万化」と同じ漢字の構成で成り立っている四字熟語を一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□(4)。

- ① 千差万別 ② 千客万来 ③ 一日千秋 ④ 古今東西

問五 次の傍線部の語句と同じ品詞が用いられているものを、あとから一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は□(5)。

彼はオウムのように同じことを繰り返した。

- ① 口で言うようには、うまくいかない。
② この景色は箱庭のように眺められる。
③ わたしはエジソンのようにになりたい。
④ この辞典は使い始めのように見える。

私たちは、雷が電気であることをたしかめるために、雷雨の中でタコをあげたベンジャミン・フランクリンの話を知っています。だが、かれがそのほかに、たくさん、たいせつなことをしたことを知らない人が多いかもしれません。

アメリカが自由をもとめ独立を宣言したとき、その独立宣言文を書くためにえらばれた五人のうちの一人――それがあのタコのベンジャミン・フランクリンだったのです。実際はのちに大トウリヨウ^aになったジェファソンが書き、フランクリンが読み返していくらかなおした――それが今日私たちが手にするアメリカの「独立宣言」なのです。

こうした政治家フランクリンを知っている人でも、かれがストーブの発明者だったことや、おじいさんやおばあさんがかけているメガネで、上半分と下半分の間にすじがあり、上が近眼、下が老眼というあのメガネを発明し、世界ではじめてかけたのがかれましたことまでは知らないにちがいありません。問題はそれから先のことです。

たしかにかれは鉄製のストーブをつくりました。それまで家庭暖房は部屋のすみの壁に作られ炉であり、そこで火を燃やすものでした。だが炉の中の熱い空気はその上のえんとつの中をまっすぐ上にぬけて外に出ていき、なかなか室内の空気はあたたかくなりませんでした。

―― A フランクリンは考えました。鉄のストーブをつくり、部屋の中に入れる。すると熱くなったストーブがまわりの空気をあたためる。煙はえんとつがはこぶ、えんとつもあつくなり部屋はあたたかくなる。

こうしてつくられたストーブは人びとにコウヒョウ^bでした。フランクリンは自分の住んでいる地名、ペンシルバニアをとって、これをペンシルバニア・ストーブと名づけました。しかしフランクリン・ストーブとよぶ人も多くいました。

問題はさらにこれから先のことです。

友人たちはこの発明で、特許をとることをフランクリンにすすめたのです。だがフランクリンは特許をとろうとはしませんでした。もし特許をとり、自分が特許料をとれば、それだけストーブの値段は高くなり、これを利用する人は、それだけ高くはらわなければならないというのです。多くの人が、少しでも安く利用できるように…：フランクリンはこの発明をすべての人に、自由に、利用させようとしたのです。

だが、もうひとりの科学者ノーベル賞で有名なノーベル(一八三三～一八九六)はどうだったでしょう。よく知られているように、ノーベルはダイナマイトを発明しました。しかしかれは、発明家だけではなかったのです。かれはこの特許をとり、それをもとに工場をつくり、会社を営みました。

いや、たんに経営しただけではないのです。イギリスに、ドイツに、さらにはメキシコ、南米、オーストラリアなどに、かれの特許をもとにいくつもつくられた会社がたがいに競争し、ダイナマイトの値段が安くなることをふせぎ、協力して利益をまもるために、これらの多くの会社の株をもち、支配する親会社(トラスト)をつくったのです。

はじめそれは（一八八六年） ロンドンに本社をおく、ノーベル・ダイナマイト・トラストとして、イギリスとドイツの五つの会社を支配する親会社でした。まもなくイギリス、メキシコ、南米の五社がこれに加わり、ノーベルが死んだとき、二十カ国に親会社がおかれ、重要な工場だけで、九十三の工場が世界じゅうにブンプ^cしていました。ドイツは二十三工場、イギリスは八、アメリカは六、日本にもこうした工場がひとつあったのです。

このトラストという親会社は、もちろん独占のためのひとつの形でした。たがいに協定して、価格をつりあげたり、生産量を制限したりするカルテルとともに、有力な独占の形でした。B、ひとつの親会社がダイナマイトを作る多くの会社の株をもつて、これらの会社を支配する以上、支配される企業はたがいに競争をおこなわず、親会社がいうように価格をきめ、値段をつりあげるからです。それによる利益がノーベルのねらいでした。ノーベルは、自分の発明した技術を特許とし、これをあたえるダイショウ^dとして、こうしたトラストを世界的につくりあげたのです。このノーベルがつくったトラストが、ヨーロッパで最初のトラストにほかなりません。

ノーベルはギョマン^eの富をのこして死にました。そのこされた財産、ノーベル賞が作られました^fが、そのバクダイな富は、こうした独占によってつくりだされたのです。その点でノーベルは、特許¹すらとらなかつたフランクリン¹と正反対の人といえます。

フランクリンのような人はレイガイ^gでしょうか。

たしかに、今日、かれのような人は、ほとんどいないでしょう。なぜなら、その発明がすばらしいものなのに、もし特許をださなかつたならば、ほんとうの発明者でもない人が特許をだし、特許料をとってしまうかもしれないからです。実際に、ベルギーの特許は、特許をとりたいと申しだた人の特許内容をまず公表し、その後審査するという制度であるために、日本やアメリカのように何年もかかって審査し、それが特許に値することがわかつたのちに公表する国にくらべて、何年も公表がはやいので、ベルギーでの公表にたえず目をくばり、“これは”¹と思つものがあると、日本とか、南米とか発明者がまだ特許をだしていそうもない国に特許をだし、その技術を利用する権利を自分のものにする¹ことを職業としている人もいるほどなのです。

にもかかわらず、歴史をさかのぼればフランクリンのような人がたくさんいたことを、私たちは忘れてはならないのです。

医学の発達がそれでしょう。

病気にきく薬を求めて、いかに多くの人たちが努力したか。ある人は薬となる草を求めて、それを飲み、からだをこわした人もいたにちがいありません。まちがって命を落とした人もいたかもしれません。そうした多くの人たちの努力と犠牲のうえに今日の医学が築かれたのです。

新しい手術の方法——それを金もうけのために研究誌、それを秘密にし、金をはらつた医者だけにそれを教え、こうした医者を結集して独占組織をはりめぐらし、金をもうけようとノーベルのようにトラストをつくつた研究者はいませんでした。

糸をつむぎ、布をおる技術を、コダイ^hの人びとは、子供に、孫に伝え、伝えられた人はこれをときにカイリョウⁱして人に伝えるなど……今日私たちの生活のキン^jには、こうした無償の行為^kがいくえにも、いくえにも積み重ねあ

わされているのです。古くは火の発見、鉄をつくりだした努力、そして文字の発明……そうしたことは数えあげられるならば、ながい人間の歴史を昔にさかのぼればのぼるほど、数えきれない無償の行為があります。それによって、社会は進歩したのです。

(伊東光晴「君たちの生きる社会」)

問一 傍線部 a～j と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- a トウリョウ [6] ① 朝からシユリョウに出るマタギ。 ② 事情をリョウカイする。
 ③ リョウドを拡張する。 ④ 虫歯をチリョウする。
- b コウヒョウ [7] ① ヒョウバンの良い店。 ② 無実をシヨウメイする。
 ③ 人命救助でヒョウシヨウされる。 ④ 恋人を両親にシヨウカイする。
- c ブンプ [8] ① 税金のカンプ。 ② 農薬をサンプする。
 ③ 土木事業に雇われたニンブ。 ④ 決勝進出のキップを手にする。
- d ダイシヨウ [9] ① ワダイを変える。 ② 大ダイリに参上する貴族。
 ③ カンダイな処置。 ④ 戦前とはセダイが変わった。
- e キョマン [10] ① ケンキョな姿勢。 ② 総裁センキョに出る。
 ③ キョダイな建物。 ④ 自宅と橋とのキョリを測る。
- f バクダイ [11] ① 敵地をバクゲキする。 ② 罪人をホバクする。
 ③ サクバクたる風景。 ④ 秘密をバクロする。
- g レイガイ [12] ① レイセイに対処する。 ② 今夜はイレイの暑さだ。
 ③ 講師にシャレイをする。 ④ 部下にメイレイする指揮官。
- h コダイ [13] ① 私の座右の銘はオンコチシンド。 ② 王政にフッコする。
 ③ カコのある男性。 ④ 表情をコチョウして描く。
- i カイリョウ [14] ① 新商品をカイハツする。 ② 憲法をカイセイする。
 ③ ソウカイな気分だ。 ④ 議会をカイサンする。
- j キソ [15] ① ソボウな言動。 ② 彼は四面ソカの状態だ。
 ③ 国にソゼイを納める。 ④ 民主政治のソセキとなる。

問二 空欄 A・B にあてはまる接続語として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号

は [16]・[17]。

- A [16] ① そこで ② つまり ③ だが ④ または
- B [17] ① ただし ② さらに ③ すると ④ なぜなら

問三 二重傍線部Ⅰ「ねらい・Ⅱ「いくえ」の意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号は⑱・⑲。

- Ⅰ ⑱ ① 願いが実現する好機。 ② 達成しようとする目当て・意図。
③ 修養・経験などを積むこと。 ④ 不思議な出会い。
- Ⅱ ⑲ ① 多くのものが加わっていること。 ② 無駄なことが繰り返されること。
③ 方向に迷いながらも進むこと。 ④ 必要な作業を淡々と行うこと。

問四 傍線部Ⅰ「特許すらとらなかつたフランクリン」とあるが、「フランクリンの考え」についての説明として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は⑳。

- ① 無料で新発明を公開することによって、また開国したばかりで、他国に比べて発展途上のアメリカ社会の技術を向上させ、先進国にすること。
② 自分がいかに国民を思っている人間なのかということを通して国民に分かってもらい、近い将来人々の支持を受け、アメリカの最高指導者になること。
③ 世界中の人々が鉄製のストープの便利さを知り、たくさんの人々に使ってもらうことが、結局はめぐりめぐって、自分の利益につながるということ。
④ 特許を取ってお金をかせぎ自分が裕福に暮らすのではなく、多くの人々の幸せを思い、少しでもストープが安く利用できるようにしようということ。

問五 傍線部Ⅱ「トラストをつくった」とあるが、ノーベルがトラストをつくった理由として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は㉑。

- ① 会社どうしが互いに協定を結び、自分たちに有利にするよう価格をつりあげたり、生産量を制限したりすること、大きな利益を挙げられるから。
② ひとつの親会社が多くの子会社を支配することで、その子会社の人たちは安定した暮らしを確保でき、安心して仕事に専念することができるから。
③ ひとつの親会社がたくさん株を持つて支配することで、子会社に親会社の言うような価格で値段をつりあげさせて利益を得ることが出来るから。
④ いくつもの会社が互いに競争することで値段が下がり、その結果として多くの人たちに安くて、質の良い製品をいつも供給することができるから。

問六 この文章の表現の特徴として、最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は **22**。

- ① 全体的には過去形の表現をとっているが、時折、現在形をの表現を挟むことで臨場感を出している。
- ② 平易な表現を使い、話題に関するエピソードを組み込んだりして、全体像をつかみややすくしている。
- ③ 体言止めや比喻法、倒置法などの表現技法を使うことによって、作者の主張を深く印象づけている。
- ④ 漢語を多用して厳格さを出しつつも常体を使うことで文章全体の雰囲気柔らかいものになっている。

三 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。解答番号は **23** ～ **38**。

都市の自動車分担率は、一九八七年では四〇%であったが、それから二十年以上経過した二〇一〇年時点ではその約一・五倍の五八%となっている。同時にそれとヘイコウして、地方都市の「郊外化」は深刻化した。例えば十万〜二十万人規模の地方都市における、「高人口密度」エリアに住む人々の数は、一九七五年からの約三十年で「半分」にまで激減している。

つまり、地方都市は着実にクルマ **X** 傾向が上昇していったと同時に、薄く広く広がっていく「郊外化」を進行させていったのである。

このように、現代の地方都市は、激しく「郊外化」したのだが、それはすべて、モーターゼーションクルマ社会があったからこそ、なのだ。地方がクルマ社会でさえなければ、日本中の街々が、鉄道駅やお城、港などを中心につくられた「都市構造」を、今もまだイジシ続けていたはずなのだ。ところがクルマ社会になったことで、その骨格はどんどん弱体化し、都市構造それ自身が溶けてしまい、郊外ヘダラグラと流れ出てしまった。

その結果もたらされたのが、「地方の衰退」だ。

以下、いくつかの節を使って、クルマ社会がいかに地方を衰退させていったのか、という客観的なプロセスを解説していききたい。

第一に、クルマ社会が進行し、かつ、郊外化していけば、バスや電車の客がどんどん減っていく、「赤字路線」となって、運行ヒンドがどんどん減っていく、最終的に「廃線」されていく。そうやって地方部のバスや電車はどんどんなくなっていく。つまり、クルマ社会化が、郊外化とあいまって、地方都市のバスや電車などの公共交通を弱体化させていった。 **ア**

そもそも、電車やバスというビジネスは、人々がまとまって住み、まとまって活動する状況では、大いに黒字化する。一方で、郊外化した地方都市のように、人々がバラバラに住み、バラバラに活動する状況では、バスや電車は採算が極めてとりづらくなる。ましてやモーターゼーションが進み、クルマ依存が深刻化すれば、人々はバスや鉄道に見向きもしなくなる。 **イ**

A クルマ社会が進行すれば、地方のバス会社や鉄道会社の多くは、結果的に倒産していく他なくなっていくのである。

実際、全国のバスの利用者は、現在、一九七〇年頃のピークに比べて六割も減少した。バスビジネスは今や完全な「シャヨウ産業」だ。

ただし、そんなバスや鉄道の公共交通ビジネスでも、都会では十分に採算が合う。

実際、集中が進む大都会、とりわけ首都圏ではバスや電車の客がどんどん増えていった。例えば首都圏の山手線や郊外に向かう鉄道路線は客不足で困っているのではなく、客が増えすぎたことによる激しい混雑が悩みの種になっているほどだ。

こうした状況を受けて、首都圏では戦後、何十年にもわたって新しいバス路線、鉄道路線がどんどんつくられていった。**ウ**

こうしたプロセスを経て、今や東京は、文字通り、世界一の鉄道ネットワークを持つ街となった。ニューヨークよりもパリよりもロンドンよりも、東京の電車ネットワークの密度は断トツで高い。こうなれば、もう誰も普段の移動でクルマを使わなくなる。だから先にも指摘したように、東京二十三区内では、すべての移動のたった一割にしか、クルマは使われていない。言うまでもなく、このクルマ依存度の低さがまた、バスや鉄道ビジネスの収益性を、さらに高めている。

こうやって、大都市と地方とで、公共交通の利便性に圧倒的な**Y**が開いていったのである。あらゆる街の発展は、「投資」によって導かれる。今、繁栄している東京の六本木にせよ銀座にせよ、政府が鉄道をつくり、道路をつくり、民間がビルを建て、店をつくっている。

こうした行為はすべて、官や民による「投資」行為だ。そして、こうした投資によってできた様々な都市シセツ^eが、その街の魅力を作りあげ、多くの人々がやって来るのである。

一方、クルマ社会が進行した地方都市の中心部には、ほとんど誰も投資しない。それどころか、それとは正反対に「撤退」し始める。先に、バス会社や鉄道会社が、地方都市ではビジネスが成り立たず、路線を廃止していく、と指摘したが、それはまさに「民間の投資」とは正反対の「撤退」現象だ。また、「シャッター街」という現象も同様に、民間の店主たちの「撤退」を意味している。

いずれにせよ、クルマ社会が進行すれば、人々はこれまで何十年、何百年という歳月をかけてそれぞれの地で、それぞれの地元の人たちが投資して作りあげてきた「まちなか」に投資をすることをやめ、それとは正反対に「撤退」し始めていくのである。

エ このようにして、クルマ社会が進む今日、大都会は巨大な投資が繰り返されてますます「魅力的」になっていくと共に、地方都市は投資どころか「撤退」が繰り返され、その「魅力」を急速に失っていったのである。

こうやって地方都市がどんどん「魅力」を失い、大都会がどんどん「魅力的」になっていけば、当然人は、地方から都市へと移り住むようになる。

つまり、人々、とりわけ「若者」たちは、電車もないバスもほとんど来ない、買い物することすらままならない不便な「田舎」よりも、いろいろな店やレストランがたくさんあって、電車が便利な「大都会」に魅力を感じ、引

つ越していったのである。

B、クルマ社会化、郊外化に伴う「街の魅力の喪失」以上に深刻なのが、「雇用の喪失」である。

先に、クルマ社会の地方都市では「民間が投資をしなくなり、撤退していく」ということを指摘した。これは直接、「雇いを喪失している」ことを意味している。例えばシャッター街化すれば、もうそこでは働けない。バス路線、鉄道路線が撤退すれば、そのための運転手も事務員も皆必要なくなる。

一方で、大都会で投資が繰り返されれば、そうやってできた店やオフィスを運営するための雇用が生み出されることになる。

かくして、地方都市での投資が縮退し、民間撤退が繰り返される郊外化が進行したクルマ社会では、地方都市はどんどん雇用を失っていく。

これが、地方から都会への人口流出における決定的理由となる。

大都会に都市の魅力があることを知りながらも、何とか地元の生まれ故郷で生きていこうとする若者たちでも、仕事がなければ仕方なく、都会に行くしかなくなってしまふ。

こうした街の中心部の衰弱が、デフレ下で衰弱していった当該地の農業や工業の衰退とあいまって、それぞれの地方の**Z**を縮小させ、人口流出を加速させていったのである。

(藤井聡「クルマを捨ててこそ地方は蘇る」)

問一 傍線部 a～e と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つずつ選びなさい。

a ヘイコウ (23)

- ① ヘイガイを除く。
- ② 腕をスィヘイに保つ。
- ③ 門をヘイサする。
- ④ 乾電池をヘイレツにする。

b イジ (24)

- ① この服のセンイは丈夫でない。
- ② 旧態イゼンたる制度。
- ③ 自宅のイマに風景画を飾る。
- ④ 故人のイシを尊重する。

c ヒンド (25)

- ① ヒンシの重症を負う。
- ② キヒンのある婦人。
- ③ 出入りがヒンバンな家。
- ④ ゴクヒンの生活を送る。

d シャヨウ (26)

- ① 南国の人はヨウキだ。
- ② 今日はヨウジがある。
- ③ 彼の考えはヨウチだ。
- ④ ヨウイな問題。

e シセツ (27)

- ① 工場のセツビを整える。
- ② お金をセツヤクする。
- ③ 二本のパイプをセツソクする。
- ④ 経済について詳しくカイセツする。

問二 空欄 A・B にあてはまる接続語として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番号

は (28)・(29)。

A (28) つまり

② だから

③ ところで

④ さらに

B (29) ただし

② それとも

③ たとえば

④ しかし

問三 二重傍線部Ⅰ「あいまって」・Ⅱ「採算が合う」の意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で

答えなさい。解答番号は(30)・(31)。

Ⅰ (30) ① 同じ原因が重なって ② 強く反発し合って

③ 互いに影響しあって ④ 同時に連続して

Ⅱ (31) ① 今後の見通しが立つこと ② 収支が引き合うこと

③ 投資が期待できること ④ 大いに黒字化すること

問四 空欄X～Zにあてはまる語として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は(32)～(34)。

X (32) ① 信頼 ② 依存 ③ 願望

Y (33) ① 効率 ② 格差 ③ 相違

Z (34) ① 雇用 ② 環境 ③ 人口

問五 この文章からは、次の一文が抜けている。ア～エのどこに戻すのが最も適切か。番号で答えなさい。解答番号は(35)。

号は(35)。
こうなれば「まちなかは」ますます、その魅力を失っていき、ますます人が離れていく。

① ア ② イ ③ ウ ④ エ

問六 傍線部1「都市構造それ自身が溶けてしまい、郊外へダラグラと流れ出ていってしまった」とあるが、これは

どういうことか。その説明として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は(36)。

① 昔に比べて地方の都市では、鉄道やバスなどの交通機関よりも速く移動できるクルマの方が便利だということ
② 昔に比べて地方の都市では、鉄道やバスなどの交通機関よりも速く移動できるクルマの方が便利だということ
③ ことが分かり、人々が騒音の多い都市よりも、環境の良い郊外に住むことを好むようになったということ

④ 都市はもともとその地域特有のインフラや文化を土台として発展してきたのに、クルマ社会になったことでインフラ的にも経済的にも徐々に衰退し、利便性のない都市から人が出ていくようになったということ

⑤ 地方の都市ではマスコミの影響で人々の嗜好が変化し、昔ながらの伝統を保つことができず、産業が衰えて、仕事のない若者たちを中心にして人々が都市から離れて他の土地に移り住むようになったということ

⑥ 以前は地方の都市は、交通インフラが整備され、産業も盛んであったが、近年はデフレで企業は倒産するし、シャッター街も多くなって、街がさびれてしまい、他の地域に活路を求めて進出していったということ

問七 傍線部2「クルマ社会が進行した地方都市の中心部には、ほとんど誰も投資しない」とあるが、その理由と

して最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は37。

- ① あらゆる街の発展は、鉄道や道路をつくり、民間がビルを建て店をつくるなど、「投資」によって導かれるが、クルマ社会になると、中心部に「投資」をしても人が集まらないために、ビジネスが成り立たないから。
- ② 大都会の東京とは違い、現在の地方都市では仕事が少ない、魅力もないことから、青年の地方離れが進み、中心部では企業が人材を確保することが難しい状況にあり、新たな「投資」先を考える余裕などないから。
- ③ デフレ下で地方都市の中心部の人口は大変少なくなり、利益も見込めないのに、ほとんどの企業や商店は小規模経営で資金に乏しく、中心部に「投資」をすることは企業や商店の存続にとっては危険なことだから。
- ④ クルマ社会になると、中心部では交通機関は混雑するので人々はクルマを利用して移動することを好み、郊外に住居を移すために、利益の出ない中心部よりも、郊外に「投資」する方が、はるかに利益が出るから。

問八 本文に書かれている内容として適切でないものを次から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は38。

- ① 現代の地方都市は、激しく「郊外化」したが、それはすべて、モータリゼーション||クルマ社会化があらたからだと言うことができる。
- ② 東京は今では世界一の鉄道ネットワークを持つ街となっているが、そうになると、誰も普段の移動でクルマを使う必要性を感じなくなる。
- ③ 地方の多くの若者たちは、生活に便利な「大都会」に魅力を感じるのではなく、何とか地元の生まれ故郷で生きていこうと考えている。
- ④ クルマ社会の地方都市では、民間が投資をしなくなって撤退していくが、これは直接、雇用を喪失しているということの意味している。